（別紙様式４）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年7月31日※１

（前回公表年月日：令和 3年6月10日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
ホンダテクニカルカレッジ関西	昭和56年2月28日	五月女　浩	〒589-0012　大阪府大阪狭山市東茱萸木2丁目1937-1 （電話）072-366-9011
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人ホンダ学園	昭和55年3月17日	安部　典明	〒356-8567　埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 （電話）049-264-0121

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	自動車整備士	平成１９年文部科学省告示第二十一号	-

学科の目的	学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論を習得させ、新時代に相応しい健全有意な国家一級自動車整備士を育成する事を目的とする。
認定年月日	平成29年2月28日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2090	744	0	1270	0	76
		時間					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
200人	172人	37人	9人	0人	9人

学期制度	■前期：　４月　１日～　９月３０日 ■後期：　１０月　１日～　３月３１日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法： 平常試験、報告書及び期末試験を総合して評価 （平常及び期末試験は６０点以上合格）
長期休み	■学年始：　４月　１日～　４月　５日 ■夏季：　８月１２日～　８月２１日 ■冬季：　１２月２４日～　１月　６日 ■学年末：　３月１３日～　３月３１日	卒業・進級条件	必須科目全ての履修完了、および全ての試験に合格が課程修了の条件 必要な課程を修了した者を進級・卒業認定する
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応： 本人及び保護者(家庭連絡）連絡、部科長・担任との三者面談実施、保護者との連携強化	課外活動	■課外活動の種類： 献血、学園祭、校外研修、地域清掃活動　等 ■サークル活動：　有
就職等の状況※２	■主な就職先、業界等（令和３年度卒業生）： 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、自動車関連企業 ■就職指導内容： 就職説明会、企業説明会、企業セミナー等の開催 クラス担当及び就職担当による個別指導等 ■卒業者数：　68　人 ■就職希望者数：　62　人 ■就職者数：　62　人 ■就職率：　100　% ■卒業者に占める就職者の割合： 91.18　% ■その他： ・進学者数：　0　人 （令和　３年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※３	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和３年度卒業者に関する令和４年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 国家二級ガソリン自動車整備士 / ② / 68人 / 68人 国家二級ジーゼル自動車整備士 / ② / 68人 / 68人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）
中途退学の現状	■中途退学者：　10 名　■中退率：　6 % 令和3年4月1日時点において、在学者171名（令和３年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者164名（令和4年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由： 学業不振、進路変更、等 ■中退防止・中退者支援のための取り組み： 個人面談、放課後の学習支援など学生個々に焦点をあてた個別指導 保護者との連携（連絡、および三者面談の実施） 学生相談室（カウンセラー） 自動車業界への興味喚起		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ・ホンダ学園賛助会奨学金制度（貸与型）：　学費及び寮費（半年毎） ・本田宗一郎特待生制度（給付型）：　学費の一部免除（1年間） ■専門実践教育訓練給付：　給付対象		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無		
当該学科のホームページＵＲＬ	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/departments/maintenance		

１．「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。

企業実習などを通じ、学校では学びきれない実践力を養う。合わせて、就職先企業への企業ＣＳ調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の把握と授業への反映を行うものとする。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け

校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会（以下「編成委員会」という。）に報告し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
瀧本　佳史	一般社団法人 大阪府自動車整備振興会	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	①
水口　和明 （一級自動車研究開発学科一級コース担当）	株式会社 ホンダ四輪販売関西	R4年4月1日～R6年3月31日	③
河井　政昭 （自動車整備科担当）	株式会社 ホンダ泉州販売	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	③
伊藤　栄一 （自動車整備留学生科担当）	株式会社 ホンダカーズ愛知	R4年4月1日～R6年3月31日	③
足立　光康 （一級自動車研究開発学科開発コース担当）	株式会社 アビスト	R3年4月1日～R5年3月31日	③
五月女　浩 （学校側委員）	ホンダテクニカルカレッジ関西 校長	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	
西山　忠臣 （学校側委員）	ホンダテクニカルカレッジ関西 教頭	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	
寺尾　典篤 （学校側委員）	ホンダテクニカルカレッジ関西 教務部部長	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	
白石　拓三 （学校側委員）	ホンダテクニカルカレッジ関西 自動車整備科科長	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	
木村　泰之 （学校側委員）	ホンダテクニカルカレッジ関西 一級自動車研究開発学科科長	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）　年２回　（６月、１１月）

（開催日時（実績））　第１回　令和３年　６月１８日　１３：００～１５：３０

第２回　令和３年１１月１８日　１３：００～１５：３０

第１回　令和４年　６月１７日　１３：００～１５：３０

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会におけるカリキュラム等検討内容として

①授業内容の見直し：新技術系内容の導入・ICT活用及びコロナ禍における授業推進

・同好会課外活動の活性化等

②教職員の能力向上の検討：コロナ禍による研修中心

③新規実習車や教材購入、学習環境整備等　などの推進・活用を図ることとした。

２．「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業CS調査においての弱点領域や点検整備など実践力不足に関して学生自らが気づく必要がある。また内定後の安堵感による気の緩みなどから就職までに備えなければならないことを実行できない学生が多い。就職先の現場を経験することで実社会の厳しさと自らの弱点を知り、卒業までの課題を自覚すると共に内定先からの期待を認識し、今後の学習意欲を喚起する。

（２）実習・演習等における企業等との連携内容

就職内定先企業にて現場実習または、諸事情により現場実習が困難な場合は、提携企業から派遣された講師により校内模擬現場実習を実施する。合わせて研修学生は実習先へ研修レポートを提出し、企業から考課表にて評価を頂くと共に科目評価とする。（対象科目：実践自動車整備）

（３）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
実践自動車整備	社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する。 【企業実習・校内模擬企業実習】	（株）ホンダ四輪販売関西 （株）ホンダ泉州販売 （株）ホンダクリオ南海 （株）ホンダネット京奈 その他の販売会社

３．「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学則細則より、教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研修を定期的に受けるものとする。

研修は①専攻分野における実務に関する知識、技能等の習得・向上、②指導力の習得・向上を目的として実施されるものを主として受講研鑽することとする。

（２）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「　ＡＤＡＳ整備研修　」　（連携企業等：本田技研工業 株式会社）

期間：令和３年９月１７日（金）　対象：自動車整備科　シャシ検査単元担当

内容：ADAS機能装置の機能、エーミング等整備研修

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「　専修学校新任教員研修　」　（連携企業等：大阪府専修学校各種学校連合会）

期間：令和３年７月３０日（金）～８月６日（金）　対象：自動車整備科　新任教員

内容：専修学校教員としての必要とされる基礎知識、教育手法、クラスマネジメント等の習得

（３）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「　新機種新機構等研修　」　（連携企業等：本田技研工業 株式会社）

期間：令和４年１０月　対象：全科　教員

内容：新機種における構造、機能、整備作業要領など

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「　夏季教員研修会　」　（連携企業等：大阪府専修学校各種学校連合会　）

期間：令和４年８月　対象：教員歴　２～３年目

内容：授業マネジメント、学生指導力向上など

４．「学校教育法施行規則第１８９条において準用する同規則第６７条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（１）学校関係者評価の基本方針

学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況について自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

（２）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（１）教育理念・目標	建学の志・学園の目的・教育方針　年度における重点課題
（２）学校運営	３ヵ年計画及び方針と目標（重点課題）
（３）教育活動	教務部方針及び重点課題対応施策
（４）学修成果	就職内定率・資格取得率・退学/休学率・社会的な活躍及び評価
（５）学生支援	進路指導・学生相談・経済的支援・学生の健康管理 ・課外活動・学生寮・保護者との連携・卒業生への支援
（６）教育環境	国土交通省における一種養成施設設置基準
（７）学生の受入れ募集	募集活動目標と施策
（８）財務	事業計画・主要財務数値・予算書・監査計画書
（９）法令等の遵守	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準
（１０）社会貢献・地域貢献	環境への取組み・社会貢献事業に対する取組み（地域清掃）
（１１）国際交流	

※（１０）及び（１１）については任意記載。

（３）学校関係者評価結果の活用状況

令和２年度の自己点検・評価報告に対し評価委員会から、学生・保護者から選ばれる学園という大きな課題に対して、学生確保に向けた取り組み、退学者数の低減の取り組み、新技術対応を踏まえた授業内容の見直し、国家資格取得の更なる強化等の御提言を頂き、令和３年度も引き続き重点施策として取り組んできた。

（４）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
木村　一年	本田技研工業 株式会社	R4年4月1日～R6年3月31日	企業等委員
水口　和明	株式会社 ホンダ四輪販売関西	R4年4月1日～R6年3月31日	企業等委員
河井　政昭	株式会社 ホンダ泉州販売	R2年4月1日～R4年3月31日 R4年4月1日～R6年3月31日	企業等委員
今井　武士	ホンダ テクニカル カレッジ 関西 後援会 会長	R3年3月1日～R5年3月31日	ＰＴＡ

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（５）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　　）

URL:　https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/

公表時期：令和４年７月１日

５．「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（１）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は公的な教育期間として、学校教育法に基づき教育活動や学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとされている。我々が行っている実践的な職業教育･専門技術教育に対する社会的な理解、評価を促進し、学習者の適切な学習機会選択に資するためにも情報提供と社会による説明責任を果たすことは重要である。また情報提供による関係業界との連携・協力は、教育の質の確保と向上に繋がると考える。
以上の観点から、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿い、必須の９項目を網羅し、分かり易く学校のホームページに掲載する。掲載にあたっては個人情報の取扱いに十分留意し、公正、正確な情報を適時・適切に提供する。

（２）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（１）学校の概要、目標及び計画	建学の志、学園の目的、育成方針、沿革、安全･保健対策計画
（２）各学科等の教育	入学・卒業情報、カリキュラム、資格･国家試験結果、進路
（３）教職員	教職員数、組織情報、教員の専門性
（４）キャリア教育・実践的職業教育	企業との連携による取組み状況、就職支援への取り組み
（５）様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動（同好会・ボランティア活動）
（６）学生の生活支援	学生相談
（７）学生納付金・修学支援	納付金情報、奨学金制度
（８）学校の財務	主要財務数値
（９）学校評価	自己評価、学校関係者評価、改善施策
（１０）国際連携の状況	
（１１）その他	

※（１０）及び（１１）については任意記載。

（３）情報提供方法

（ホームページ）・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　　）

URL:　https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/

授業科目等の概要

	（工業専門課程　自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎 自動車工学	これから学ぶにあたり、基本的な自動車とは何かについて理解する整備士にかかわる工学的な基本事項理解する	1前	23		○			○		○		
2	○			エンジン系 構造	原動機及びエンジン系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する	1前	63		○			○		○		
3	○			シャシ系 構造	車体各部及び車体系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する	1前	63		○			○		○		
4	○			自動車 総論	自動車に関する物理・数学、環境、内燃機関等基礎概論を理解習得する	1通	25		○			○		○		
5	○			図面 ・材料	自動車を取り扱う上で必要な材料の種類、製法、特徴、用途及び図面に関する一般知識について理解習得する	1通	19		○			○		○		
6	○			エンジン系 整備	エンジン及びエンジン系電装品の点検整備、および電子制御燃料噴射装置の基礎を学ぶ	1後	37		○			○		○		
7	○			シャシ系 整備	車体、動力伝達、変速装置、走行装置、懸架装置、および灯火類などのシャシ系電気装置の点検整備を学ぶ	1後	37		○			○		○		
8	○			二輪車 整備	二輪車特有の各種装置の点検整備、および調整方法を学ぶ	1後	36		○			○		○		
9	○			整備作業・ 測定・検査 ・機器	整備作業・測定・検査に関して、その目的を理解し、基本的な作業の仕方や正しい使用法などを理解する	1通	34		○			○		○		
10	○			エンジン系 応用	エンジン総論バランサ機構、可変バルブ開閉機構、ロータリエンジン、燃料装置、ＬＰＧ、過給機など、エンジンの構造機能（応用編）及び、燃料油脂などについて理解習得する	2前	37		○			○		○		

	（工業専門課程　自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
11	○			シャシ系応用	シャシ性能総論、ＡＴ、油圧ＰＳ、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ＡＢＳ，ＴＣＳ等の機能構造作動等について理解習得する	2前	37		○			○		○		
12	○			ジーゼル自動車	ジーゼル自動車全般についての構造作動機能・故障診断と整備を習得する	2後	27		○			○		○		
13	○			総合自動車工学	国家二級試験に合格するために、自動車工学の復習を行い、理解度を深める	2後	28		○			○		○		
14	○			自動車総論	走行性能、プラネタリギヤ、エンジン性能、熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ波形、軸重計算、制動性能　等	2前	27		○			○		○		
15	○			故障原因探求	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する一級資格につながる電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する整備に関する制度等の基本的な事項を理解する	2後	27		○			○		○		
16	○			総合自動車整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する	2後	54		○			○		○		
17	○			自動車検査	自動車の点検車検要領・診断機器・大型自動車・検査機器取り扱いなど自動車の検査や各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する	2前	23		○			○		○		
18	○			自動車法規	法規道路運送車両法、道路運送車両の保安基準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士としての知識と技術を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける	2後	23		○			○		○		
19	○			工作作業	整備に必要な機械加工技術を理解習得するとともに、工作機器の基本的な取り扱いを覚える	1前	23				○	○		○		
20	○			基本計測	計測作業の正しい方法を理解習得する	1通	45				○	○		○		
21	○			実エンジン系構造	エンジン本体・潤滑・冷却・燃料装置・吸排気装置及びエンジン系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能と故障整備概要を理解習得する	1前	153				○	○		○		

	（工業専門課程　自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
22	○			実シャシ系構造	クラッチ・ＡＴ/ＭＴ・サス・ブレーキ・ステアリング・ボディ及びシャシ系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能作動と故障整備概要を理解習得する	1前	153				○	○		○		
23	○			実エンジン系整備	前期エンジン系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	109				○	○		○		
24	○			実シャシ系整備	前期ｼｬｼ系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	109				○	○		○		
25	○			実二輪車整備	前期二輪車構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	86				○	○		○		
26	○			実エンジン系応用	Ｖ６エンジン・可変バルブ機構、ロータリ、ＬＰＧ燃料装置、過給機、ラッシュアジャスタなどエンジン新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する	2前	106				○	○		○		
27	○			実シャシ系応用	オートマチックトランスミッション、パワーステアリング、アライメントなどシャシ新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する	2前	106				○	○		○		
28	○			実践自動車整備	社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する【企業実習・校内模擬企業実習】	2前	50				○	○		○		○
29	○			実自動車検査	自動車の検査について実習作業を通じ理解習得する各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する	2前	57				○	○		○		
30	○			実ジーゼル自動車	ジーゼル自動車全般についての構造作動機能・故障診断と整備を習得する	2後	50				○	○		○		
31	○			実故障原因探求	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得実践する電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する	2後	50				○	○		○		
32	○			総合自動車整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容などを実践し、その手法等を理解習得する	2後	100				○	○		○		

	（工業専門課程　自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
33	○			安全運転	安全運転に関する心構えを認識し、今後の運転等の意識改革を図るとともに事故減少に取り組む	1 2 通	36		○		△	○	△	○		
34	○			接客実務	サービスにおける接客実務の理解の幅を広げ、実践できるようにする（ＳＥ３級）	1 2 前	36		○			○			○	
35	○			特別講座	就職先進路別グループに分かれ、国家試験合格に向けた最終実力養成と、即戦力となりうる実践的スキルの習得、向上を目指し実力養成を図る	2 後	108		△		○	○			○	
36	○			新機構・次世代技術	車両技術領域及び診断作業等領域における新デバイス・新システム等の構造機能等の理解習得を図る	1 2 後	21		○			○		○		
37	○			新機構・次世代技術	車両技術領域及び診断作業等領域における新デバイス・新システム等の構造機能、整備要領等の理解習得を図る	1 2 後	75				○	○		○		
合計					３７科目	２０９３単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全てにおいて必要時間の履修を完了し、かつ全ての試験に合格することが課程修了の条件となり、必要な課程を修了した者を進級・卒業認定とする	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	２６週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。